

屋根の応急処置！



ブルーシートのはり方



災害ボランティアセンター愛知人
代表 赤池博美













はじめに！

原則として屋根の補修は専門業者（プロ）に 依頼することが前提です！

しかし・・・災害直後は修理依頼が殺到するため
業者の施工を待てない場合があります。

修復までに1ヶ月以上かかる場合はブルーシート
をかけて応急処置を行うことで、屋根からの浸水
を防ぐことができます。

今回お知らせする内容

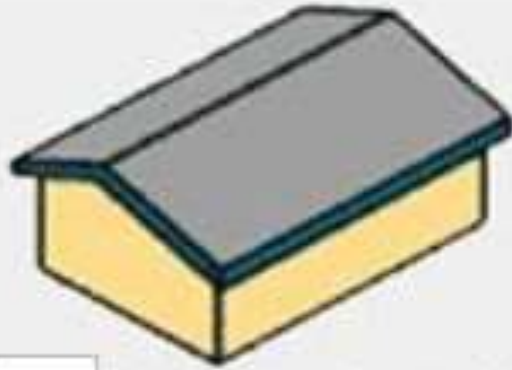
- ・ やむを得なく屋根に上がる時の注意点
- ・ 間違った施工で逆に被害が大きくなるのを避ける
- ・ 業者の方へ参考にしていただく（このマニュアルを業者へ見せていただいてもかまいません）



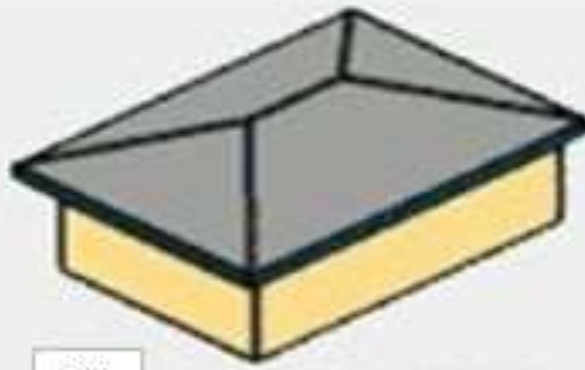
まずはじめに その2 熱中症に注意！！ 絶対！

- 喉が渴いていなくても水分・塩分をこまめにする
 - できれば、飲み物を携帯して屋根に上がる
 - 水分だけではなく塩分も取る
 - 体調が悪くなってからでは遅い

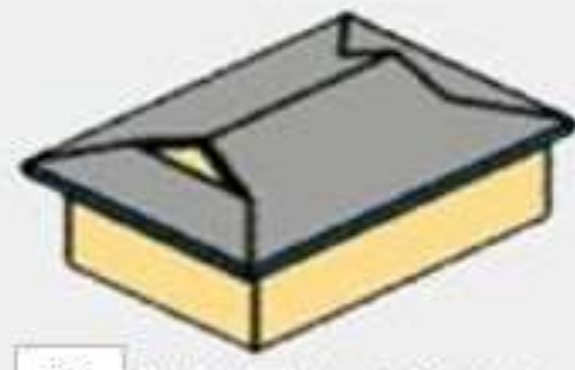




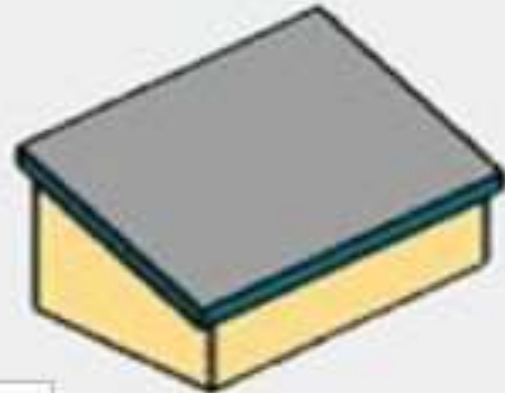
① 切り妻(きりづま)



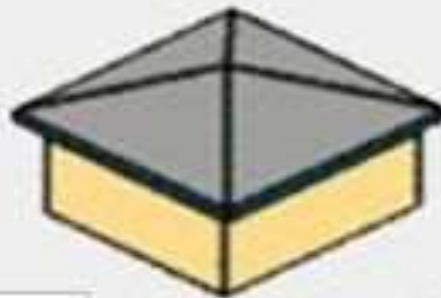
② 寄棟(よせむね)



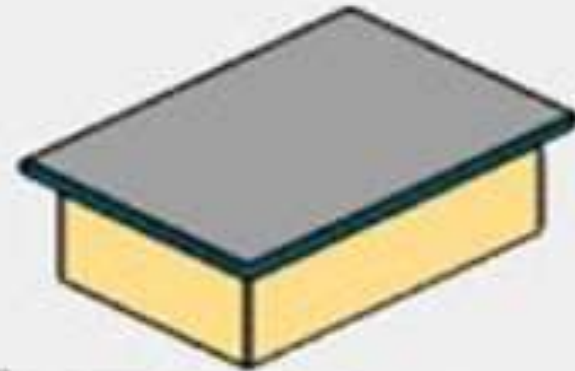
③ 入母屋(いりもや)



④ 片流れ(かたながれ)



⑤ 方形(ほうぎょう)



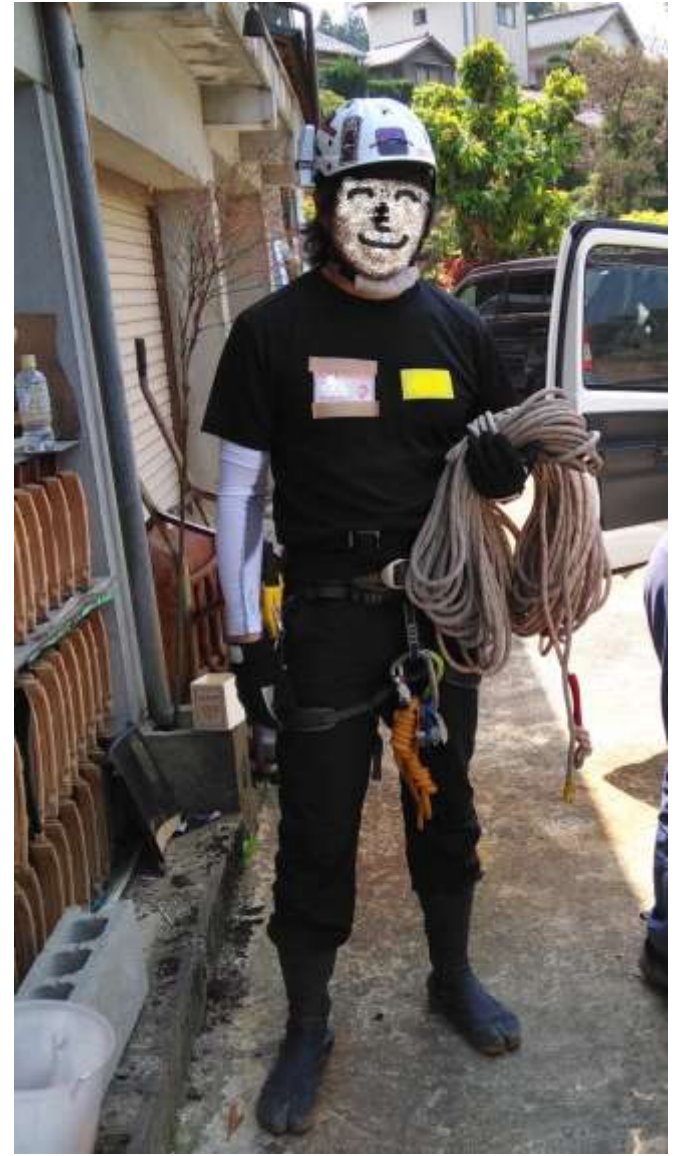
⑥ 陸屋根(りくやね、ろくやね)



安全確認

服装などの確認

- ・ ヘルメット
- ・ 長袖・長ズボン・滑りにくい靴 ※瓦は滑ります！
- ・ 地下足袋を推奨（なければ靴底が柔らかい運動靴など）
- ・ 手袋
- ・ 安全帯（フック付）またはハーネス+アッセンダー



安全確認



固い地面の場所で、左右の足が設置しているか？確認する
梯子の上部をベルトなどで固定する
誰かが上るときには下で梯子を支えておく
1人以上が梯子には乗らない

安全確認



命綱をつける

親綱を張る ※親綱・・・命綱を結ぶためのロープ
親綱は下で太い樹木や丈夫なカーポート、ブロック塀等に
しっかりと結びつける

大屋根の場合は親綱に通したアッセンダーに
カラビナをつけて安全帯のフックをかける

片屋根の場合は親綱に直接安全帯のフックをかける

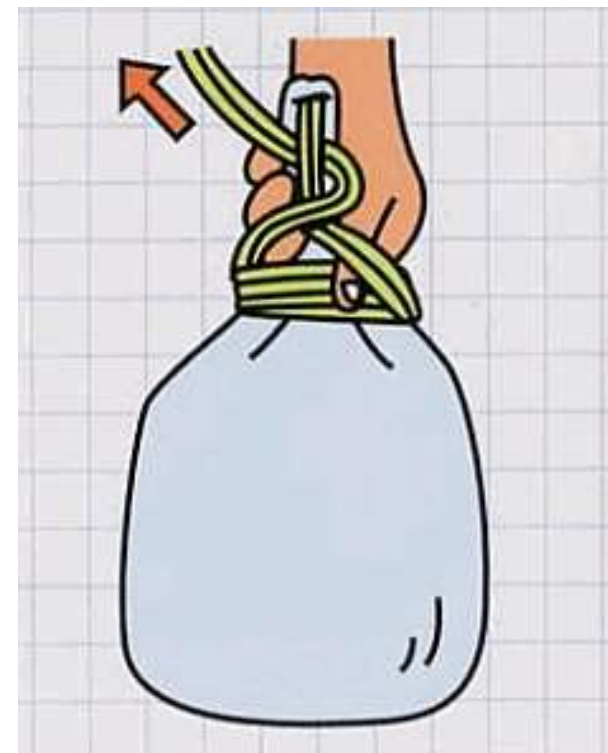
アッセンダー：落ちたときにロープが留まる道具



UV土嚢袋の準備



砂は袋一杯にはせず
半分くらいの量を入れて
口を縛っておく



※割れた瓦などのガレキは入れない！（袋が破れやすくなるため）

屋根の準備



屋根上を片付ける

屋根に上がったら、できるだけ瓦と瓦の重なる部分を歩くようにする

長期に渡って濡れている屋根は腐っていることもあり、瓦のない部分は踏み抜くことがあるので注意する

割れた瓦を取り除く

棟瓦は屋根から下ろす（重石として屋根に置かない）

割れた瓦やその破片を土嚢袋に入れない

自力で修正できそうならずれた瓦を元に戻す

瓦の上に砂がある場合は滑りやすいので、砂をほうきなどで掃く

悪い施工例

UV土嚢袋を使わなかった場合（熊本、施工から約2ヶ月後）



悪い施工例

土嚢袋に瓦を入れた場合（熊本、施工から約2ヶ月後）



※瓦やガレキは袋が破れて地上に落下する危険があるため、絶対に使用しない！

ブルーシートをはる



「マイカ線」を使用する
ビニールハウス用のヒモ
丈夫で紫外線にも強い

白い荷造り用のPP（ポリプロピレン）ひもは
紫外線の劣化により1ヶ月ほどで切れる！



屋根の準備



棟瓦が番線で固定されている場合
上部を養生する
(スポンジ、折りたたんだブルーシートなど)

地上での準備

屋根のサイズを測る

屋根のサイズに合わせてブルーシートの大きさを決める

土嚢袋はUV対応（紫外線防止剤入）※通常の白い袋だと2〜3ヶ月で破れる

ブルーシートは#3000番以上で耐久性6ヶ月以上のものを使用する

屋根に上る前にブルーシートを畳みなおす

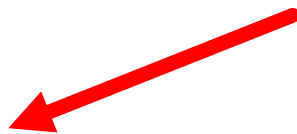


地上での準備



屋根上で採寸したサイズで
ブルーシートを地上で
カットする

地上での準備



シーツの端に野地板を固定する

ブルーシートをはる

畳んだブルーシートを屋根に上げて、中心（棟）から広げる



ブルーシートをはる



土嚢袋を屋根に上げて、均等の幅でブルーシートの上に載せる。1 対づつマイカ線で結んで固定する

※端は野地板の上に土嚢袋が乗るように固定する

ブルーシートをはる



野地板の繋ぎ目は50センチに切った野地板を使いビス止めして補強します

野地板は左右を連結させて補強します

ブルーシートをはる



野地板の上に土嚢袋を乗せます。
板がブルーシート全体を抑えるため
風でまくり上がることが少なくなります



土嚢袋を野地板へビス止めして固定します

ブルーシートをはる



1Fの屋根などの場合はブルーシートの端を、木切れなどに包み、壁と屋根の境目の水切り部分に押し込んでネジや釘で固定する。

ブルーシートをはる



他のかたちの屋根の場合も、同じく水切りに巻き込んだり、
瓦の隙間ではさみ、雨や風の侵入を防ぐようにする

施工中の注意点

- 屋根上は物が落ちやすいので、必ず固定する
- 定期的に休憩を取る（タイムキーパー役を決める）
- 喉が渴いていなくても水分・塩分をこまめにする
- できれば、飲み物を携帯して屋根に上がる
- 水分だけではなく塩分も取る
- 気分が悪くなった場合は無理をしない！



最後に

- ・ ブルーシートはあくまで「応急処置」です
- ・ 業者の施工が長期間（１年以上）行えない場合は
ブルーシートの張かえが必要になります
- ・ こちらでご紹介した施工方法は「長期間屋根修理が
できない」場合となります

屋根に上れない場合のブルーシートによる 家財道具の応急処置

天候が悪くて、屋根にブルーシートがかけられなければ、応急的に室内でかけます。
出来ればバケツの周りはブルーシートを敷けて置ければよいです。



部屋の角に
フックを
かけます

NPO災害ボランティア「愛・知・人」



フックに
吊るします。

NPO災害ボランティア「愛・知・人」

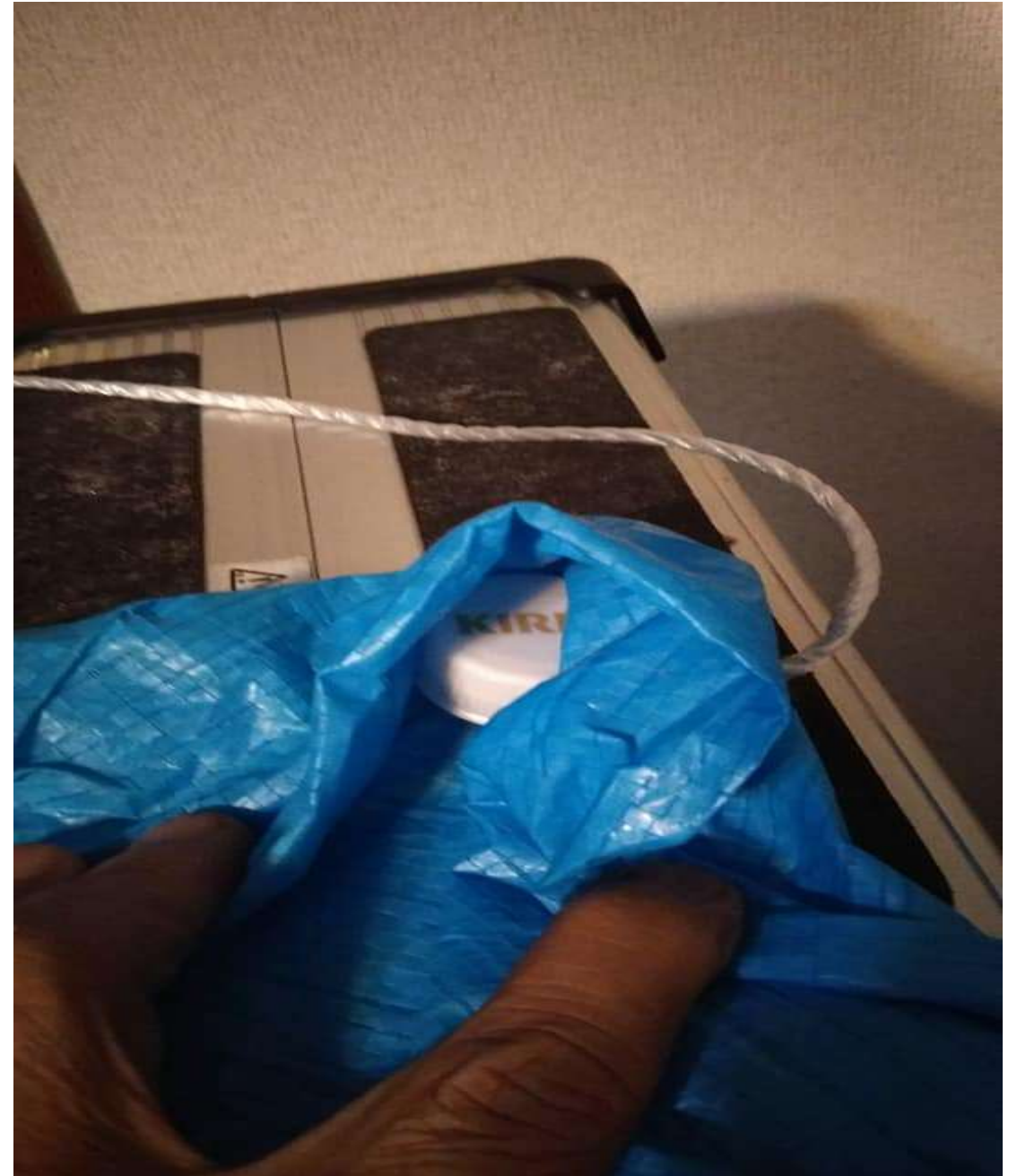


サイズが部屋の大きさより
大きい場合は、

ブルーシートをたくして
てるてる坊主みたいに

頭の部分に中のペットボト
ルの蓋を入れて
紐で吊るします。

NPO災害ボランティア「愛・知・人」



ペットボトルに水を半分くらい入れて真ん中に置くと、そこに水がお集まり穴から落ちやすい



屋根の損傷が大きく、漏れる量が多い場合は斜めにして、端を窓やベランダに出せば
どうでしょう。



ベランダに出しました。



真ん中の水の道を作る
ために長い物

ホウキ等でも置いて
おく。

NPO災害ボランティア「愛・知・人」

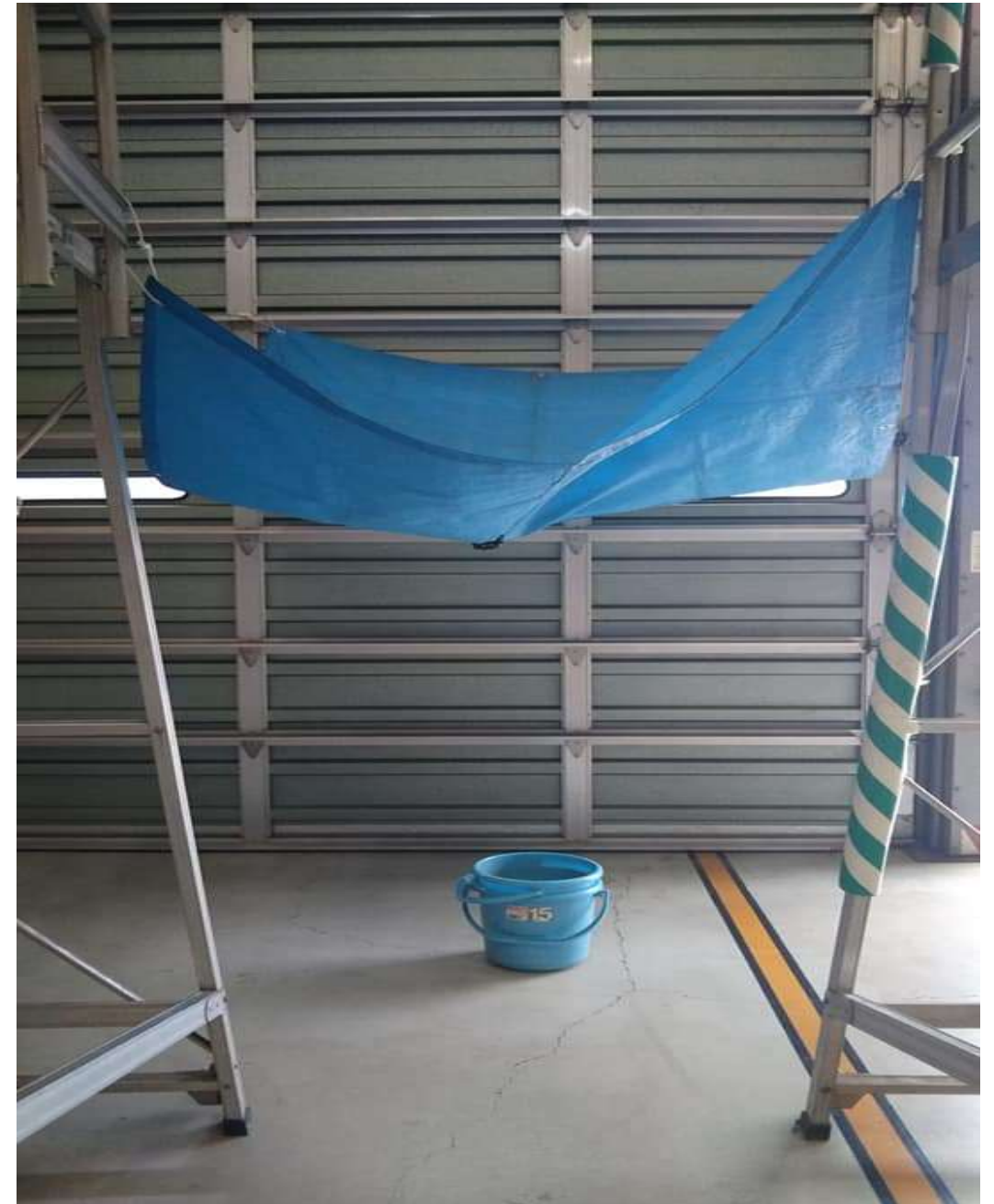


イメージ図



イメージ図

NPO災害ボランティア「愛・知・人」



屋根の応急処置！



ブルーシートのはり方

終わり